



『トマス、ハブられる』

日本基督教団 華陽教会 牧師 柳本伸良

【聖書】

(ヨハネによる福音書 20:24～29)

十二人の一人でディディモと呼ばれるトマスは、イエスが来られたとき、彼らと一緒にいなかった。そこで、ほかの弟子たちが、「わたしたちは主を見た」と言うと、トマスは言った。「あの方の手に釘の跡を見、この指を釘跡に入れてみなければ、また、この手をそのわき腹に入れてみなければ、わたしは決して信じない。」さて八日の後、弟子たちはまた家の中におり、トマスも一緒にいた。戸にはみな鍵が掛けてあったのに、イエスが来て真ん中に立ち、「あなたがたに平和があるように」と言われた。それから、トマスに言われた。「あなたの指をここに当てて、わたしの手を見なさい。また、あなたの手を伸ばし、わたしのわき腹に入れなさい。信じない者ではなく、信じる者になりなさい。」トマスは答えて、「わたしの主、わたしの神よ」と言った。イエスはトマスに言われた。「わたしを見たから信じたのか。見ないのに信じる人は、幸いである。」

「ハブられる」って言葉を知らない人は、もうあまりいないですよ。いわゆる村八分状態、一人だけ仲間外れにされる。みんなから無視され、ものごとを共有されず、どんどん孤立してしまう。学生の皆さんも自分がそうになってしまわないか、ときどき不安になりませんか？

自分だけLINEの連絡が届かない。自分だけ遊びに誘ってもらえない。自分だけがないとき、周りが盛り上がっている。私一人、みんなと違う状況。私のみ、置いていかれる状態。こんなの一度でも経験したら、色々信じられなくなりますよね？

幸か不幸か、今は新型コロナの影響で学校に集まることができず、教室の中、サークルの中でハブられる状況は起きにくくなっています。ところが今、大学に籍を置いている皆さんは、ある意味、社会からハブられる事態になりました。

授業が受けられない、遊びにも行けない、友達と会えないどころか作れない、あるいは国に帰れない、実家から出られない人もいるでしょう。しかし、ありがたいことに、今はネットの時代です。離れていても、SNSやビデオチャットでつながることができます。中部学院でも、ネットによる遠隔授業が計画されています。

大丈夫、若い皆さんは何とかなる……そう言いたいところですが、実際はこの状況に置いていかれる人たちが後を絶ちません。SNSが苦手な人、パソコンを使いこなせない人、あるいは、遠隔授業を受けるにしても、日本に来たばかりで言葉の壁を感じている人。

他の人がLINEやディスコードで盛り上がり、話題を共有する中で、自分は一人でニュースを聞き、一人で課題に取り組んで、一人で一日を終えていく。誰かと交わることもなく、誰かが助けることもない。孤独で寂しい一週間……このまま友達もできないで、授業もついていけないで、自分の大学生活は終わりを迎えてしまうのか？

何で今、直接的な出会いや助けを必要とする私には、その機会が与えられないのか……せっかくイースターを迎えたのに、神の子が復活したとかいう、めでたい時期を迎えたのに、私にはその実感が伴わない。だって、喜びを共有できないから。私だけ、つながりももたらされないから。

この状況、誰かとものごく似ています。そう、死んだはずのイエス様が弟子たちの家に現れたとき、一人だけそこにいなかったトマスと同じ。自分だけ、イエス様と出会えなかった。自分だけ、喜びを、話題を分かち合えなかった。

これってイエス様に嫌われたから？ 敢えて私がいなくて、みんなの前に現れた？ ハブられることに敏感な私たちも、トマスに思いを重ねます。私のことはどうでもよくて、見向きもされないんだろうか？ このまま置き去りにされるのか？

口々に「イエス様が来た」と話す弟子たちに、思わずトマスはこう言います。「あの方の手に釘の跡を見、この指を釘跡に入れてみなければ、また、この手をそのわき腹に入れてみなければ、わたしは決して信じない」

この気持ち、わかりますかね？……わかりますよね？……イエス様が現れたとき、家にいなかったあなたが悪い！ そう言われている気分です。自宅待機になったとき、パソコンの前に座れない私は、スマホの操作もできない私は、見向きもされない者なんですか？

社会にも学校にも置いていかれた。同期のみんなに置いていかれた。それこそ特別なことが起きなければ、誰かが私とつながってくれなければ、私はもう、こんなところにいられない！ みんなと一緒に生活できない！

トマスの要求は、自分とイエス様の距離を知るための非常に切実な叫びです。近くであなたを見させてください！ 自分の傷口に触らせるほど、心許していると言ってください！ 彼の言葉は自分勝手だなんて言えません。愛する者とのつながりを切実に望む叫びです。

そんな彼に対し、イエス様はすぐ会いに来てくれるのか？ いえいえ、なんと再会するまで8日もかかってしまいます。一週間放って置かれたことが不憫です。この8日間ってすごく長かったですよね。いったいいつ新型コロナは収束するのか、先が見えない私たちのようです。

しかし、確かにイエス様はやって来ました。それも今回は明らかにトマスのためです。「あなたの指をここに当てて、わたしの手を見なさい。また、あなたの手を伸ばし、わたしのわき腹に入れなさい。信じない者ではなく、信じる者になりなさい」

あなたの要求を実現するため、あなたの願いを叶えるために、私はここにやって来た。無視されていると思った願い、聞かれていないと思った訴えも、私はちゃんと聞いている。あなたも共に喜びなさい！

実は、新型コロナが広がる前から、自宅待機を命じられる前から、大学の中で「置いていかれた人たち」は、ずっと存在していました。授業に出たくても体を壊して、心を病んで出られない。実家の事情、経済的事情で、急に学校へ行けなくなる。そんな人たちが何人もいました。

何とかして、みんなと同じ授業を受けたい。学校の誰かとつながりたい。だけど、決められた日、決められた時間に教室という場にはいない私は、きっと見向きもされないだろう……そう思っていた人たちに、この騒動をきっかけにして、学院から、新しいつながりももたらされようとしています。

こうなるまで、長い時間がかかりました。8日なんてもんじゃありません。8週間、あるいは8ヶ月待った人もいるかもしれません。今まで、連日大学へ行くことができなかった人たちに、ようやくその

時がもたらされました。この閉塞感漂う毎日に、実は喜びも、もたらされようとしています。

そう、イエス様は、たった1人で泣いていたマグダラのマリアに、たった2人でエマオに向かって
いた弟子たちに、たった1人信じていなかったトマスに、復活した姿を見せにきました。3日かかろう
が、7日かかろうが、それからさらに8日かかろうが、イエス様は必ずあなたに会いに来ます。あなた
にもその訪れが、喜びが、見えてきますように。

掲載元：[中部学院大学・中部学院大学短期大学部_チャペルアワー](#)